

News Letter

第 21 2005.5.20

高知県立幡多けんみん病院発行

〒780-0785

宿毛市山奈町芳奈 3-1

http://www.pref.kochi.jp/~hata/

病氣ひとくちメモ 「小児渗出性中耳炎」

耳鼻いんこう科 竹内 俊二

耳痛や発熱といった症状を伴わずに中耳に炎症による液が貯留するタイプの中耳炎を、渗出性中耳炎といいます。原因として細菌やウイルスの感染・耳管（中耳と鼻の奥の交通路）の機能障害などが考えられています。耳閉感と聴力低下が主な症状ですが乳幼児では症状がはっきりしないことがあります。長期化すると鼓膜の陥凹や萎縮を起して直りにくいタイプの慢性中耳炎に移行することがあります。軽度の場合にはまず抗生物質や消炎剤の内服で治療します。これで改善しない場合は鼓膜を切開し貯留液を排出します。再発を繰り返す場合は鼓膜切開孔にチューブを挿入します。鼻の奥にあるアデノイド（咽頭扁桃）が肥大して耳管機能に悪影響を及ぼしている場合にはアデノイド切除手術を行うことがあります。



▲外来の診療科をまですご紹介致します。整形外科・外科・脳神経外科・リハビリテーション科・皮膚科があります。4月から放射線科と麻酔科が日外来へ引越し、皮膚科がA外来に加わりました。また、毎週火曜日午後4時から、予約制のS

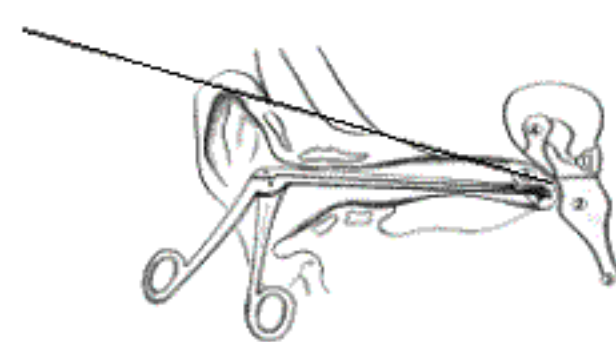
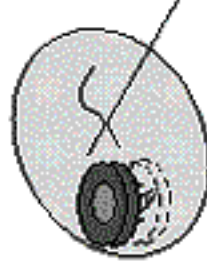
部署だより

S ▲ブロック受付

鼓膜切開



チューブ挿入



ポーツ外来を設けています。日々の業務は主に受付案内、カルテ搬送、会計の入力、カルテの病名入力、カルテ・フィルム等の収納等です。A外来の特徴は、手術や処置が多いことです。したがって診察のみと異なり診療に時間がかかり、お待ちさせる時があります。ご了承ください。外科系診療科の受付のため、仕事上のけがや交通事故による負傷も多く見られます。仕事上のけがの場合は労災保険の対象となることが多く、事業所に相談のうえ所定の書類を提出してください。また、交通事故など第三者による負傷は、自費で支払う場合・自賠責を使用する場合と様々です。保険を使用する時は保険会社への届出が必要になります。お支払い方法で不明な点がありましたらお気軽にご相談ください。スタッフ一同「正確で間違いのない医療」を十分に説明をする医療を大切に案内させていただきます。

4月の統計

外来患者数	16,389人
新患者数	1,877人
紹介患者数	290人
新入院患者数	514人
新退院患者数	548人
平均在院日数	17日
救急車・時間外患者数	1,769人
手術件数	169件



病院の理念

1. 幡多けんみん病院は幡多地域における医療の中核となる病院として、地域の他の医療機関や保健・福祉介護施設などとの連携のもとに、地域で完結できる、良質な医療の提供を目指します。
2. 地方公営企業として、地域医療をとらして地域の福祉の増進を目指しながら、企業としての経済性を発揮する運営をおこないます。

私たちの目指す医療（基本方針）

1. 正確で間違いのない医療
2. 十分に説明をする医療
3. 透明性を大切にする医療
4. 患者さんの希望を大切にする医療

季節の食卓

栄養科

「三毒を断ち、その日の難を逃れる」朝夕1個を食べれば、医者いらすと云われる梅は、医食の両面で利用されてきた貴重な健康食品です。梅干しが広く普及したのは江戸時代初期といわれています。

強い酸味の主体はクエン酸とリンゴ酸です。クエン酸は胃腸の働きを促進し、食欲をすすめ、たんぱく質の消化を良くします。これらの酸は強いので生食はしませんが、梅干し・ジャム・梅酒などに加工し、悪玉菌の抑制、整腸作用などに活用してきました。

日本人の食卓に欠かせない梅干しですが、塩分20%前後で漬けられた梅干しの塩分は1個で1.2g。最近では減塩のものも多く出回っていますが、塩分摂取量を1日10g以下に抑えるためにも、1日1個が適当です。

選び方として、粒がそろい傷や斑点のないもので、梅酒用は青々としているものを、梅干しは熟したものを選びます。



研修予定

《病院職員向け》

- 5月24日 新規採用職員研修
- 5月30日 MCカンファレンス
- 6月6日 ACLS研修
- 6月20日 人工呼吸器取扱研修

《患者様向け》

- 6月2日 母親学級 (栄養・妊娠中の異常 母子相互作用)
- 6月7日 糖尿病教室 (糖尿病とは、食事の基本)
- 6月9日 母親学級 (妊婦体操・お産の準備 赤ちゃんのお話)

医師の異動

循環器科 寺内 靖順医師に代わり、西田 幸司医師が赴任しました。

臨床研修医

藤原 泰和医師が、産婦人科・小児科で研修を行います。



くすのき委員会からくすのき委員会は、患者様へのサービスの向上を目的として設置され、活動してまいりました。ご意見箱の設置以来、くすのき委員会ではすべてのご意見に回答してまいりました。みなさまからのご意見により改善できたこともありましたが、依然として改善の必要性を指摘いただいているものもあります。これらのご意見の解決を図りたいところですが、月2回のくすのき委員会のほとんどの時間を「ご意見の回答業務に費やしているのが現状です。」

17年度のかすのき委員会の方針を議論した結果、ご意見への回答業務に終始するのではなく、委員会で解決すべきテーマを設定し、患者サービスマンに向けて活動していくという結論にいたしました。また、満足度調査や待ち時間調査も実施し、現状分析や改善状況の把握に役立てていきます。

今後は当院の広報誌にくすのき委員会のページを設け、くすのき委員会の検討事項の報告やご意見の内容別の集計とともに、ご意見への回答を1例程度掲載することになりました。

これまでの「すべてのご意見に回答する」という方法から大きく変更することになりますが、ご意見を患者サービスマンの向上に生かすという趣旨のもと「ご了解いただいたか」と思っています。